

被爆体験2人が語る

広島や長崎 傾聴講座に30人

尼崎

戦後71年

広島、長崎での被爆体験に耳を傾ける「傾聴講座」が31日、尼崎開催しており、戦後70

市西長洲町3の特別養護老人ホーム「西長洲荘」であった。広島で被爆した石橋恒さん(86)＝尼崎市＝ら2人が体験を話し、約30人が聞き入った。

傾聴講座は社会福祉法人平成会が不定期で開催しており、戦後70

当時16歳だった石橋さんは、爆心地から約1キロで被爆。飲もうとした水道の水が青白く光り、気を失ったという。誰かに背中を踏まれて意識が戻り、川に飛び込んだ。「うめき声と炎の中をさまよ

歩いた。地獄を見たことはないけど、あれは地獄だ」

長崎で被爆した女性(82)＝同＝は、多くの病気を患ったことや、絶の体験などを語り、「戦争がなかったら違った人生かなを思う」とした。

武庫川女子大短期大学部2年の谷桃萌子さん(19)は「被爆者の話を聞くのは初めてで心が痛んだが、本当に来てよかった」と話した。

(土井秀人)



被爆体験を話す石橋恒さん＝尼崎市西長洲町3